

グローバル化と国際社会B		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目	科目ナンバリング	23100103	

1. 授業のねらい・概要

「グローバル化と国際社会」の課題をより経済理論の視点から考えることを内容とする。具体的には国際金融、国際貿易、国際協定、国際的な環境問題等の実態についてできるだけ多くのデータを用いて解説する。「グローバル化と国際社会A」が歴史と今日の問題を包括的に取り上げるのに対し、本講座では今日の国際社会が抱える諸問題をより経済学的な視点を重視した内容とする。また台頭する「グローバルサウス」の動きについても取り上げる。環境問題については、予定されている「第31回 国連気候変動枠組条約締約国会議」(COP31)を中心に取り上げる。

2. 授業の進め方

板書を中心に、資料、論文等についてOA機材を用いながら受講者とともに丹念に読み進める形式で進めていく。国際社会を理解するうえで必要な経済理論、重要な論文については適宜取り上げる。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 英国・EUを中心とした欧州経済の動向
2. グローバル化に求められる経済基礎理論	10. 国際社会の問題①(新たな通商問題を中心に)
3. 国際貿易の基礎理論①(国内価格と国際価格の理論)	11. 国際社会の問題②(格差問題)
4. 国際貿易の基礎理論②(自由貿易と保護政策)	12. 国際社会の問題③(COP30における環境対策)
5. 貿易政策の経済理論(輸入関税、輸入数量制限)	13. 新たな国際社会の動き①グローバルサウスの台頭
6. 金融政策の基礎理論(インフレと金利、為替を中心に)	14. 新たな国際社会の動き②サプライチェーンの変化
7. 米国と国際社会(中間選挙、通商政策を中心に)	15. グローバル化と国際社会に関する論点を経済学的な視点から整理する。
8. 米国と国際経済(財政政策、金融政策を中心に)	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習としては日々、国際社会のニュース、記事に目を通しておくことが大切である。また、授業でも予習内容について指示する。必要であれば、スクラップも勧める。復習には、経済産業省の『通商白書』、内閣府『経済財政白書』、『世界経済の潮流』等も有効である。こうした予習・復習には2時間程度は必要であろう。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個別に公表する。宿題については復習あるいは予習を内容とし、ミニッツ・ペーパーによる提出を求める。宿題の解説については次の授業の冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

「グローバル化と国際社会」について理論的、多面的に考察できる力の修得を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等(30%)、学期末試験(70%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、特に限定しない。適宜、授業で参考となる論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、栗原裕(2018)『グローバル経済』(晃洋書房、1800円+税)、また毎年発刊される経済産業省『通商白書』、内閣府『経済財政白書』、『世界経済の潮流』。

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A」については受講済みであることが望ましい。また「EU 経済論」、「米国経済論」を学ぶ上での基礎科目と位置付けたい。今日の国際社会の動きについては、経済専門紙を日々講読することも重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。